

発掘調査からみた

古代の大宰府

九州国立博物館では、展示の魅力をさらに感じていただくため対談や講座を通したミュージアム講座を実施しています。

2007年4月からは月1回の月例講演会として、文化交流展示室の各テーマの講座を1年間行います。11月は、文化交流展示室Ⅲテーマに関連して、発掘調査から判明した古代の大宰府についてご紹介いたします。

11月11日(日) 14時～15時半

九州国立博物館 1階 ミュージアムホール

講師 杉原敏之(九州歴史資料館 技術主査)

申し込み不要(定員300名、先着順)

入場無料

大宰府の発掘調査は、1968年に大宰府政庁南門・中門跡より開始されました。大宰府政庁の調査では、地表に残る礎石建物の下より掘立柱建物が確認され、創設は7世紀後半頃と考えられています。この大宰府政庁で最も古い掘立柱建物が建てられた頃は、後に日本律令制国家において西海道を統治した古代の大宰府が成立した時期にあたります。今回は、大宰府や周辺地域の発掘調査成果を中心に、大宰府成立の問題について考えてみたいと思います。

